

バトン

心のバトンを世界へ

4年 M・Kさん

「これからの人生で、もし近くに困っている人がいたら助けてあげるんだよ。」
私の祖母の言葉だ。

でもやっぱり、友だちと遊んで楽しい時や、映画が始まる直前や、美味しそうな食事が目の前にある時には、困っている人が近くにいると、私は声をかける自信が無い。しかし母は、そういう人を見かけると、すぐに近寄りて手を差し伸べる。すごいなあ、と思いつつも私と母の体はいざとなると固まるばかり。

「お母さん、すげえね。」

私が言うと、母は、

「お母さんね、あなたくらい歳のころ、世界中の困っている人を助けたいって本気で考えたことがあるの。そしたら、あなたのおばあちゃんがね、だったらまずは、自分が歩いている人生のルールの上で出会う、困った人々を助けていきなさい、と教えてくれたのよ。」

「なんだ、それじゃあ、世界中の困っている人を助けるなんて夢のまた夢だね。」と私が意地悪を言ったのに、母はずっとほほえんでいたことを、この「バトン」を読んで、私は思い出した。

私の祖母と、心やさしい圭のおばあちゃんが少し似ていたからかもしれない。マグノリアの山、おばあちゃんの願いがこめられた人形、託す人と、うけわたされた人。それらは過去につながり未来にもつながると、中川なみさんは書いています。

私は勇気を振りしほり、ケガをして泣いている子に話しかけてパンソウコウを渡してあげた。そしたら、かわいいパンソウコウを見て、その子は笑ってくれた。翌日またその子に会った時、彼女はかわいいパンソウコウを持っていた。理由を聞いたら、「私も誰かがケガしたら、渡してあげられるようにいつも持ち歩くことにしたの。」と語っていた。

母の幼い頃の夢を聞いた日と同じように晴れた空だったが、その日の私には、もってキラキラして見えた。

母が人生のルールの上で助けた人々も、もしかしたら今ごろ誰か困っている人を助けているかもしれない。ひとつの小さな勇気ある行動が、「バトン」となって世界を変えることもあるんだ。

祖母の考えが、母の行動が、私の小さな勇気が、それらは決して英雄なんかではないけれど、確実に過去につながり、そして未来にもつながっていきまますように。